



2024.6.1  
反原発運動全国連絡会2024年度総会

## 能登半島地震報告

志賀原発を廃炉に！訴訟原告団  
北野進

## 今日お話ししたいこと

- 1 珠洲原発 ーかつての予定地と電力撤退後の珠洲ー
- 2 群発地震と能登半島地震 ー不安が現実ー
- 3 地震後の北電の対応 ーお粗末さと隠ぺい体質ー
- 4 避難計画の破綻 ー問われる自治体の責任ー



1976.10.15 北国



1976.1.17 北国

2003.12.6 北国

## 珠洲原発の建設断念

# 3電力社長が正式表明



関西電力の藤澤作、中電  
式表明した。石川県の谷本主  
る珠洲市の振興策を含め、今後  
訪れ  
新本  
対

2003年  
12月5日

「誠意」持つ

貝織珠洲市長（中央奥）に珠洲原発の建設断念への理解を求め、電力三社の社長  
同市役所

# 電力撤退後の珠洲市はどうか？

2003.12.6 北国

**放心状態 涙の両派**  
珠洲原発断念 推進派、反対派が集会

**対立28年「何のため」**  
推進・反対徒労感深く 謝罪中電社長 信頼関係

**住民「傷跡どうなるんだ」**  
珠洲原発「凍結」説明 28年間の「核」

**力のなき許して**  
貝藏市長 寺家、高屋で報告

原発、何もたら

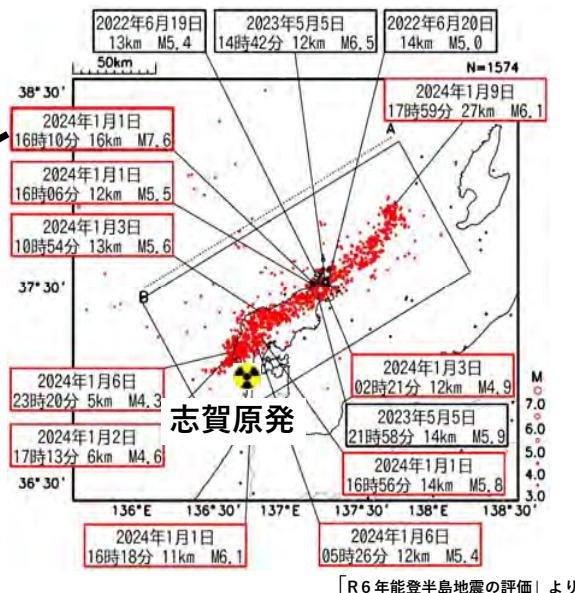
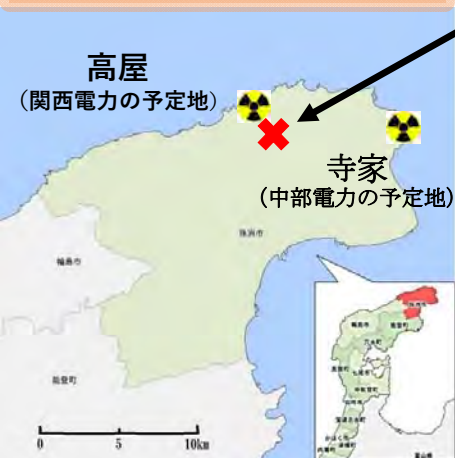
2003.12.6 北中

2003.12.6 朝日

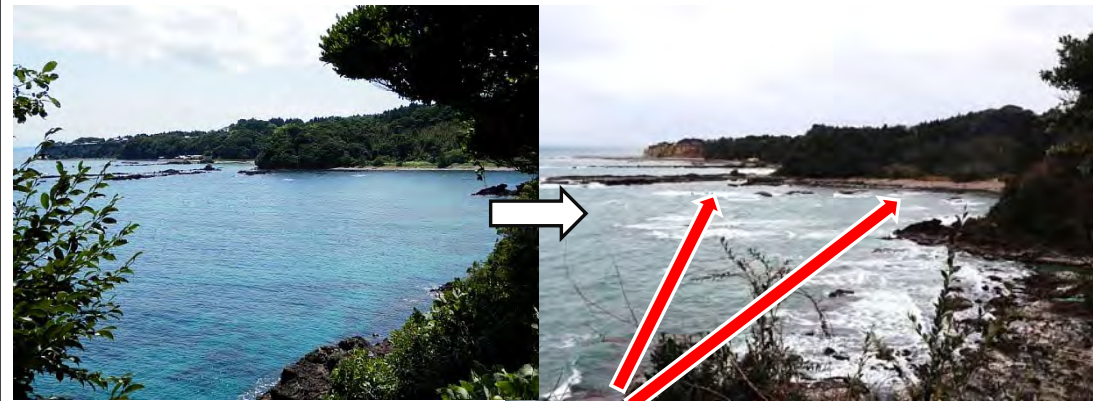
# 電力撤退後の珠洲市は怎么样了？

- 市民の融和は思いのほか早く進む
- 反対派：「勝った！勝った！」とは言わない
- 推進派：原発を語っても詮無いこと
- 巨大開発依存から地域資源活用へ市政の転換
- 推進派の原発への未練は残る
- 東京電力福島第一原発事故の衝撃
- 原発を話題にしない 志賀原発にも触れない

# 能登半島地震 震央は高屋の裏山



# 中部電力の予定地寺家はいま・・・



2024.1.20北野撮影

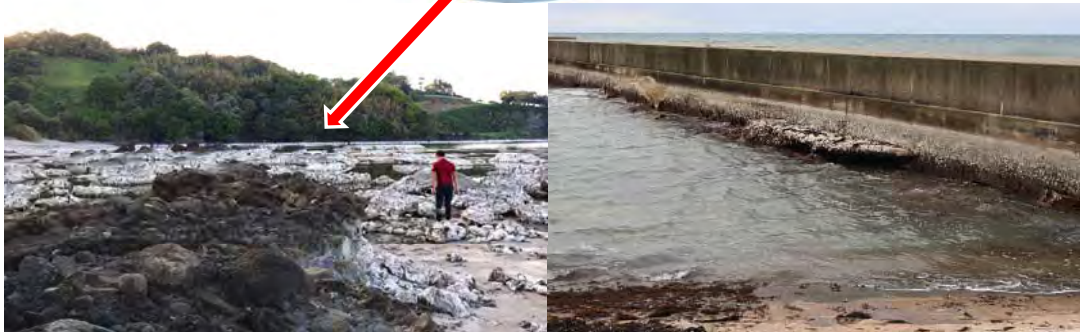
炉心予定地が隆起

寺家に原発がなくてよかった

炉心予定地前の海岸  
岩場が出現



隆起は  
約1メートル



関西電力の予定地高屋はいま・・・



予定地一帯は大きく隆起し、陸域が広がる

高屋に原発がなくてよかった



隆起は約2m

隆起、地割れ、陥没、土砂崩れ、落石（高屋の風景）



## 珠洲に原発がなくてよかった

### 2022.12～群発地震

頻繁に襲う揺れ、震度6弱、6強も

揺れるたび「原発は大丈夫か」と心配していただろう

### 2024 能登半島地震

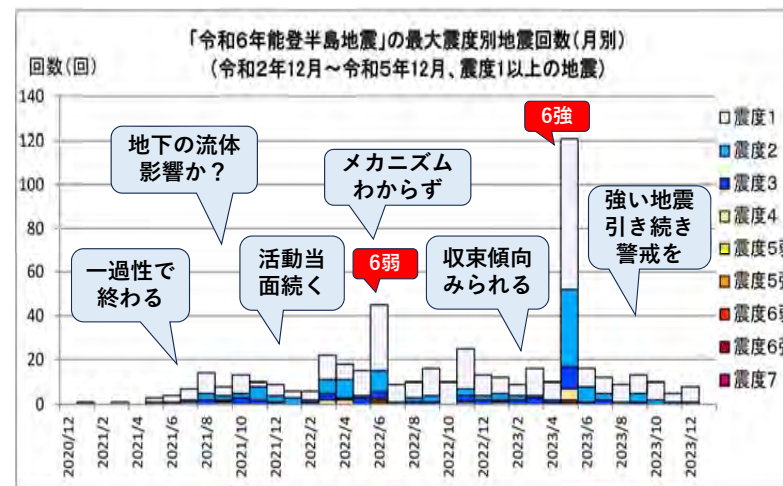
逃げられない 外からの支援は入れない

見捨てられ、被ばくを強いられた恐怖

珠洲に原発があったら大変なことになった

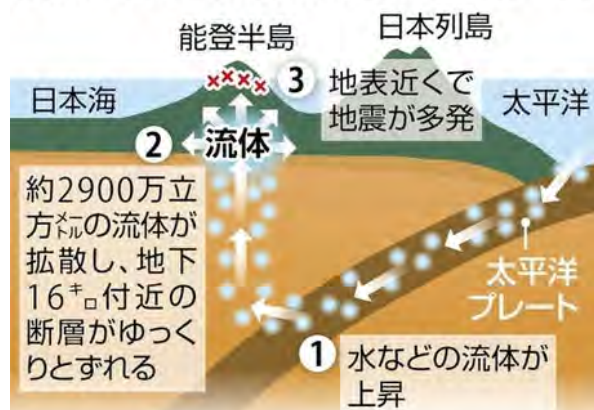
志賀を止めなければ、珠洲を止めた意味がなくなる

## 3年前から続く群発地震 市民は翻弄される



## 原因は地下の流体

### 能登半島で相次ぐ地震の要因(イメージ)



※京都大・西村教授への取材に基づく

読売新聞オンライン  
2023.6.12

## この断層が動いたら奥能登は壊滅する

### 能登半島北部沿岸域断層帯

長さ 96 km 推定M8.1

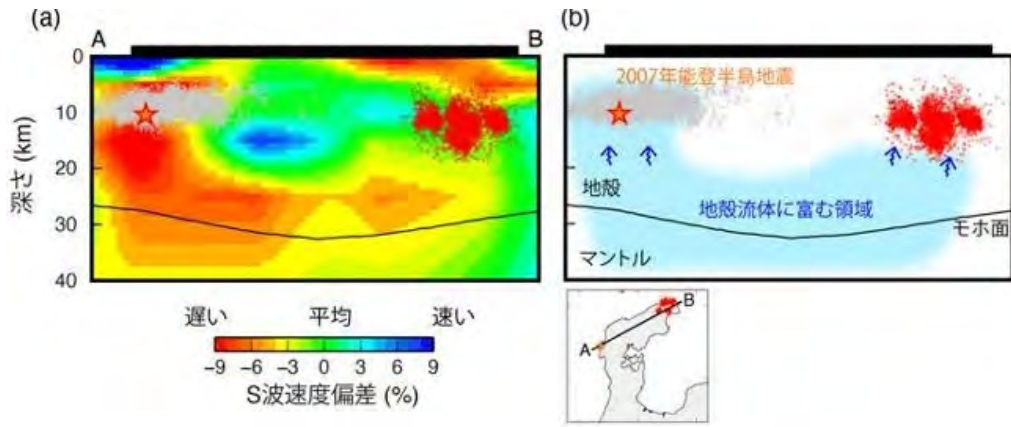
(2023.5.12規制委へ提出した北陸電力資料より)

珠洲原発の計画があった当時は活断層の存在すら認めず

志賀原発



# 能登半島地震と奥能登群発地震



2022.11.10 東工大 中島淳一教授  
「非火山地域への流体の供給と2007年能登半島地震の類似性」より 17

# 笹波沖断層帯の連動、志賀原発への影響は？

## 2023.6.28 北陸電力株主総会での質疑

### <北野質問>

群発地震が能登半島北部沿岸域断層帯に影響を及ぼし、さらに笹波沖断層帯と連動することはないのか  
志賀原発へのリスクなしと断言できるのか

### <北陸電力・小田常務回答>

志賀の耐震設計は能登半島北部沿岸域断層帯M8.1まで想定しており、**耐震安全性が確保されている**ことを確認している。  
志賀原発は設備に影響を及ぼす可能性のある**断層を確実に把握し、耐震設計に反映している**。

# 4つのセグメント連動で「能登半島北部沿岸域断層帯」

原子力規制委員会審査会合 (2023.10.6)



<重力異常の分布あり>  
<最新活動時期も異なる>

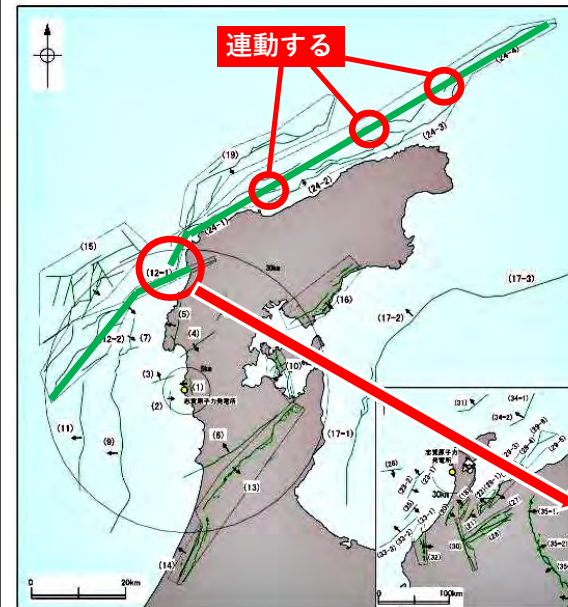


連動は示唆されない

<断層面の傾斜方向が同じ>  
<いずれのセグメントも近接>



能登半島北部沿岸域断層帯 (96km)



笹波沖断層帯との連動  
北電は否定し規制委も容認

<重力異常の分布あり>  
<最新活動時期も異なる>

<断層面の傾斜方向が同じ>  
<断層間の距離は5km内>



能登半島北部沿岸域断層帯と  
笹波沖断層帯は**連動しない**

## ダブルスタンダードの理由は？

能登半島北部沿岸域断層帯

⇒ 文献が認めている

能登半島北部沿岸域断層帯と笹波沖断層帯の連動

⇒ 文献が連動を評価していない

※文献

国交省・日本海における大規模地震の調査検討会（2014年）  
日本海地震・津波プロジェクト（文科省研究開発局・東京大学地震研究所2015,2016,2017）

「断層を確実に評価」（2023株主総会・回答）の実態

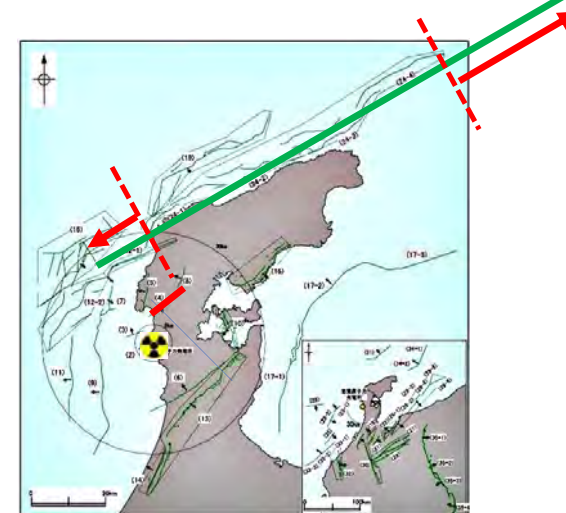
## 2024.1.1 R6能登半島地震発生

北陸電力の評価を大きく上回る  
150kmの断層が動いた！

西側：北電は笹波沖断層帯との  
連動を否定してきた

東側：規制委はNT2-NT3との  
連動の検討指示すらせず

20km離れた富来川南岸断層  
が連動した？！

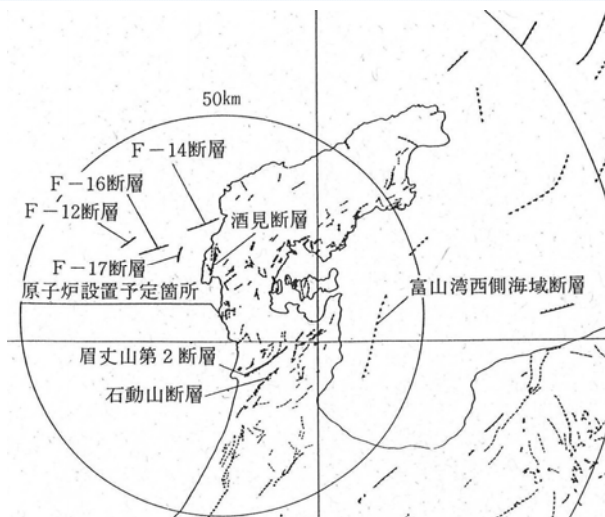


## 設置許可申請書で見る能登の活断層

1号機設置許可申請書  
添付資料より  
(1987年1月提出)

2号機設置変更許可申請書もほぼ同様  
(1997年5月提出)

少ない  
短い  
志賀原発周辺にない！



## 活断層に囲まれた志賀原発

連動 M7.8

連動 M8.1

連動 M7.6

※北陸電力は連動  
をいずれも否定  
している

地図およびマグニチュードは北陸電力の規制委提出資料より

笹波沖断層帯 M7.6

羽咋沖西撓曲 M7.1

KZ3・KZ4

海士岬沖断層帯 M6.6

羽咋沖東撓曲 M7.4

碁盤島沖断層 M6.0

兜岩沖断層 M5.8

眉丈山第二断層 M7.1

富来川南岸断層 M6.4

酒見断層 M6.6

福浦断層 M5.7

邑知潟南縁断層帯 M7.6

